

## 30年1月分 素材生産業者の活動・先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成30年 1月4日～ 30年1月15日

## 2. 調査実施方法

全国の素材生産業者に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
1月分の回答企業数は9社である。

## 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

## 素材生産動向

品目		30/1月	2月	3月
伐採動向	スギ	0.0	△ 10.0	△ 20.0
	ヒノキ	△ 20.0	△ 30.0	△ 20.0
	カラマツ	△ 25.0	△ 25.0	△ 25.0
	エゾ・トド	33.3	△ 16.7	16.7
出荷・販売動向	スギ	0.0	0.0	△ 20.0
	ヒノキ	△ 20.0	△ 20.0	△ 20.0
	カラマツ	△ 25.0	16.7	△ 50.0
	エゾ・トド	16.7	0.0	16.7
手持立木 在庫動向	スギ	△ 10.0	△ 10.0	10.0
	ヒノキ	△ 12.5	△ 12.5	△ 12.5
	カラマツ	△ 50.0	△ 66.7	△ 66.7
	エゾ・トド	△ 16.7	△ 33.3	△ 33.3

・スギの伐採動向は1月の横ばいから2月、3月は減少に。ヒノキ、カラマツとも3カ月連続減少。エゾ・トドは1月の増加から2月は減少、3月は再び増加に。

・スギの出荷・販売動向は1月、2月は横ばい、3月は減少に。ヒノキは3カ月連続減少。カラマツは1月の減少から2月は増加、3月は再び減少に。エゾ・トドは1月の増加から2月は横ばい、3月は再び増加に。

・スギの手持立木在庫動向は1月、2月の減少から3月は増加に。ヒノキ、カラマツ、エゾ・トドとも3カ月連続減少。

## モニターからのコメント

## (伐採動向)

- ・国有林の生産請負事業（主伐：トドマツ）を継続中で、1月中に完了予定（北海道）。
- ・国有林のトドマツ間伐と民有林のカラマツ間伐を実行中。天候も良く伐採は順調（北海道）。
- ・スギ、ヒノキ、カラマツの主伐を実施。当月はスギやや増加、ヒノキ横ばい、カラマツはやや減少の見通し（東北）
- ・国有林、県有林、民有林の素材生産を行っているが、年間を通じて一定の数量を確保し、作業員の通年雇用に繋げている（関東）。
- ・スギ、ヒノキ、カラマツとも伐採、出材、販売はなし（中部）。
- ・スギ、ヒノキの主伐を実施中で、カラマツはなし。当月はスギ横ばい、ヒノキやや増加の見通し（中国）。
- ・伐採はスギ、ヒノキの間伐中心に作業（中国）。

## (出材・販売動向)

- ・出材調整なし（北海道）。
- ・出材と販売は運材車の配車次第。合板材・トドマツ小径木・カラマツ等の流通材の引き合い強い。休日の土曜日等を木材の受入れ日に変更して丸太を集めている工場もある（北海道）。
- ・6月～12月までは国有林の請負生産事業、その後は県有林の立木を購入して生産している。民有林は所有者と交渉し主に間伐の買取生産をしている（関東）。
- ・スギ、ヒノキの主伐を予定。カラマツはなし。当月はスギは横ばい、ヒノキはやや増加の見通し（中国）。
- ・今年は雪が少ないため出材・販売は進

## (手持ち立木在庫)

- ・請負事業実施中のため手持ち在庫に変動はない（北海道）。
- ・冬山造材で手持ち立木を伐採するので、手持ち立木在庫は減少傾向にある。春以降の立木公売で購入する予定（北海道）。
- ・立木の手持ち在庫は、常に3年分の数量を確保しているので、安定した素材生産が可能となっている（関東）。
- ・手持ち立木在庫はなし（中部）。
- ・スギ、ヒノキの手持ち立木在庫は3カ月横ばい推移（中国）。